

東京工科大学における泡消火剤の一部流出について

1 報告趣旨

令和7年(2025年)7月10日東京工科大学八王子キャンパスの敷地内に設置している消火設備の配管一部に亀裂が生じ、P F O S (有機フッ素化合物の一種)を含む泡消火剤の一部がキャンパス内の調整池に、一部が排水処理施設に流入する事案が発生した。事故概要及び今後の対応等について報告する。

2 報告内容

(1) 事故概要

ア 事故発生日時

令和7年(2025年)7月10日(木)21:30頃

イ 原因

配管の老朽化による一部破損(泡消火剤の約2Lは雨水枡経由で調整池、約48Lは排水処理施設に流入)

ウ 市への報告

令和7年(2025年)7月14日(月)14:00頃(本市から、同日東京都、翌日国へ報告)

(2) 本市の対応

ア 水質調査

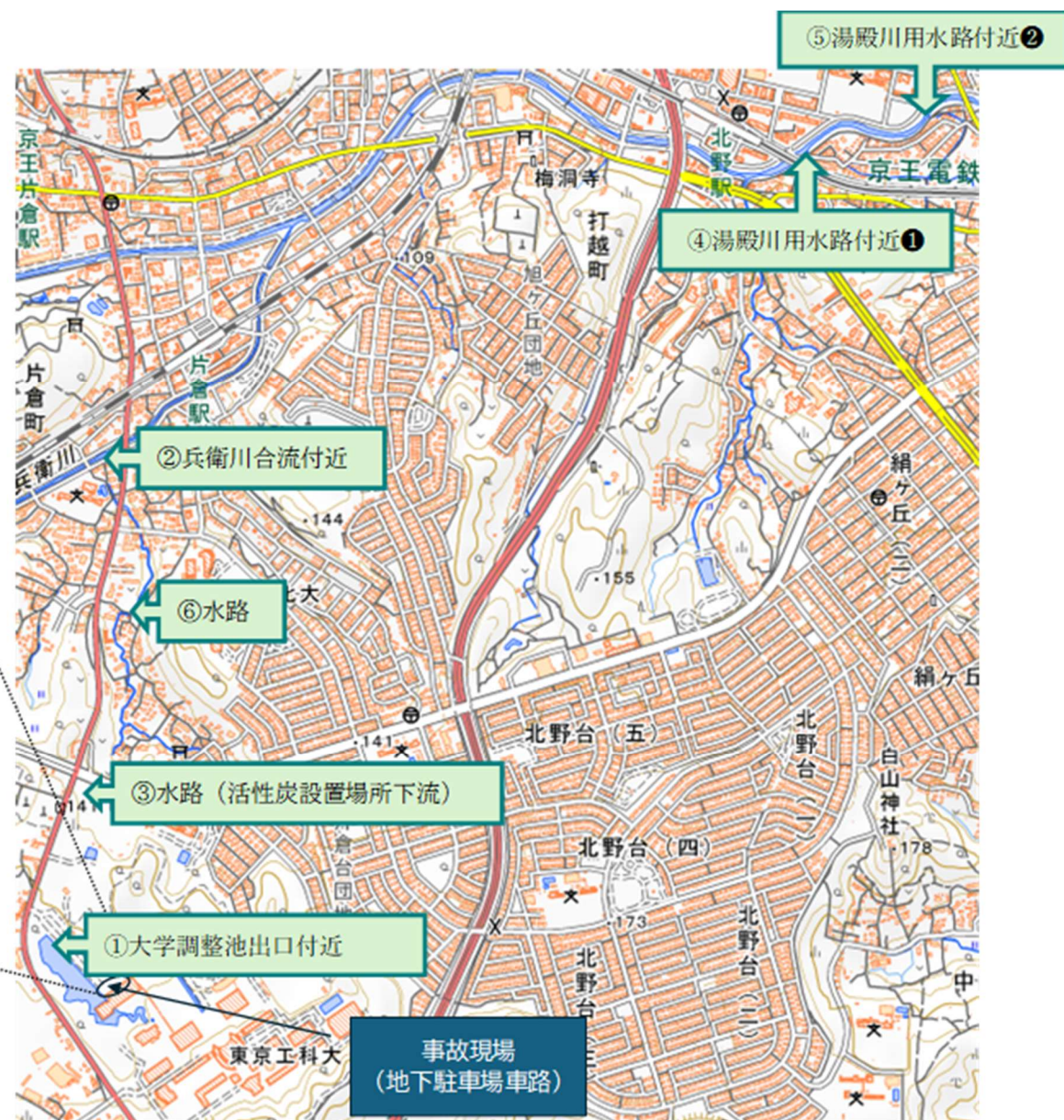
(ア) 令和7年(2025年)7月15日(火)採水場所:次頁地図①、②

(イ) 令和7年(2025年)7月18日(金)採水場所:次頁地図①、②

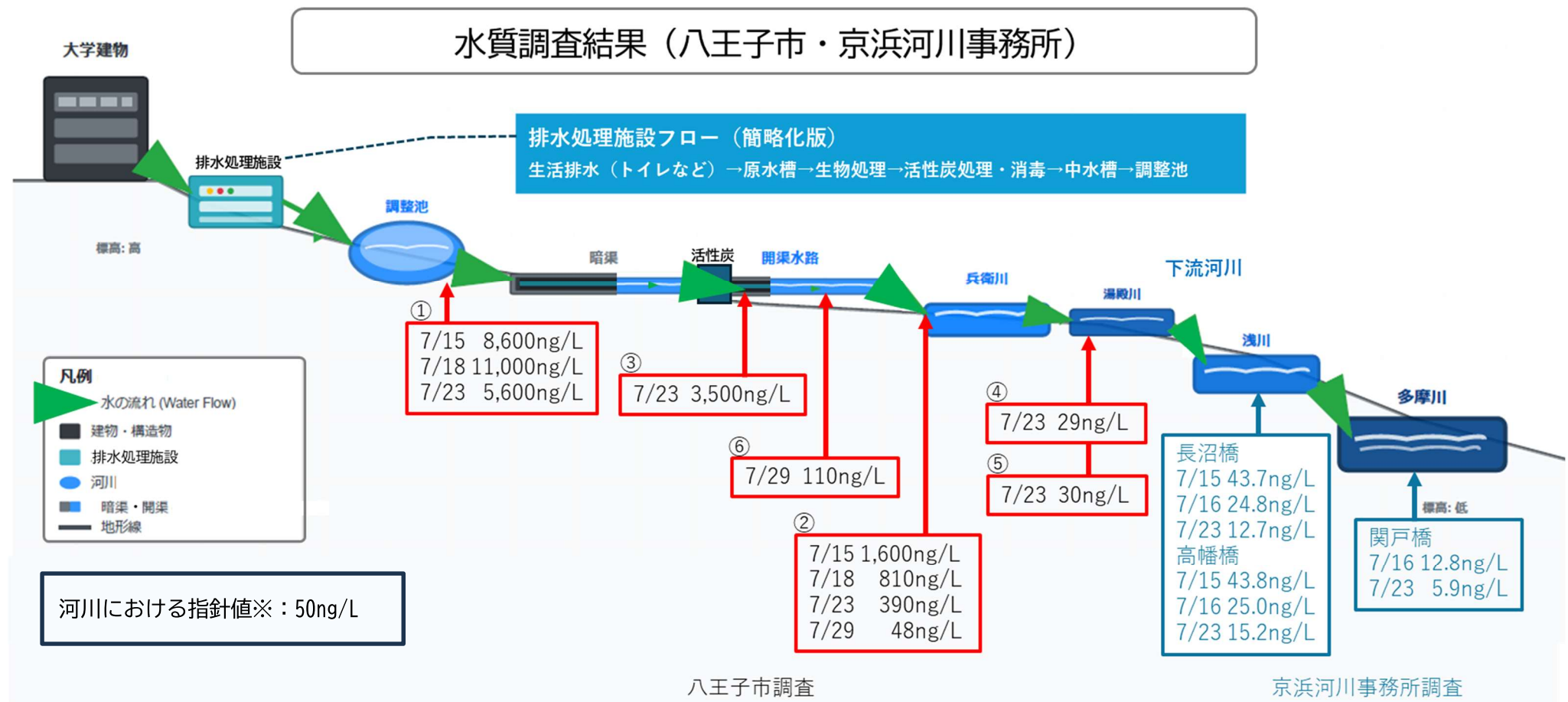
(ウ) 令和7年(2025年)7月23日(水)採水場所:次頁地図①、②、③、④、⑤

(エ) 令和7年(2025年)7月29日(火)採水場所:次頁地図②、⑥

《事故現場及び調査地点》



出典：国土地理院



※令和7年6月30日付環境省水・大気環境局長通知「水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準等の施行等について（通知）」において、水環境に係る目標値として設定。また、50ng/L という数値は体重 50kg の人が毎日2リットル生涯飲み続けたとしても健康に影響がない値として設定

イ 対策

令和7年（2025年）7月19日（土）

前頁地図③水路上流にP F O S除去に効果が見込める活性炭を設置

同大学の汚水処理を担う事業者により管理運営を引き継ぎ

(3) 同大学の対応

ア 事故当初

令和7年(2025年)7月10日(木) 21:30 頃

警備員が地下駐車場に設置されている消火設備配管から泡消火剤の漏洩を確認し、消火設備の減圧処理をしたことにより配管に残った泡消火剤約48Lは排水処理施設に流入。路上に漏洩した泡消火剤約2Lについて清掃を行ったため、雨水枡を経由し調整池に流入した。

イ 大学による情報発信

令和7年(2025年)7月16日(水)

ホームページに泡消火剤流出情報の掲載(随時更新)

ウ 排水処理施設内のPFOS含有汚水(以下「汚水」という。)処理

令和7年(2025年)7月17日(木)

流入水量を減らすため休校開始。以後、産業廃棄物処理のための搬出を開始

令和7年(2025年)8月7日(木)

段階的な水路放流に向けた高度処理プラントの試運転完了。なお、水路放流は同プラントによる浄化処理により濃度を50ng/L以下にまで下げたうえで実施

水路への放流は同年8月8日から開始

エ 高度処理プラントによる処理水放流の管理

令和7年(2025年)8月4日(月)

水路及び兵衛川にてサンプリング調査を開始

＜測定結果＞ 水路(活性炭設置場所下流)【上記図③】：8/4 920ng/L、8/8 240ng/L、8/12 309ng/L
兵衛川合流付近【上記図②】：8/4 21ng/L、8/8 24ng/L、8/12 15ng/L

オ 調整池の汚水処理

令和7年(2025年)7月23日(水)

降雨状況を勘案したうえで調整池の放流口を閉鎖

処理プラントは設置済み。水路への放流を検討中

カ 処理スケジュール

全体処理期間：令和8年(2026年)3月末完了予定

(4) 関係機関の動き

ア 関東地方整備局京浜河川事務所

(ア) 令和7年(2025年)7月15日(火)

多摩川水系の一部農業用水において念のため自主的に取水停止を報告

(イ) 令和7年(2025年)7月18日(金)

多摩川・関戸橋付近、浅川・長沼橋付近及び高幡橋付近の測定結果により暫定目標値である 50ng/L を下回る結果を報告。結果報告を受けて、日野市・稲城市内において取水停止解除

(ウ) 令和7年(2025年)7月31日(木)

汚水浄化処理後の放流について了承いただく。

イ 東京都(環境局)

(ア) 本市からの情報提供に基づき、同局から関係部局に情報提供

ウ 東京都(建設局南多摩西部建築事務所)

(ア) 令和7年(2025年)7月31日(木)

汚水浄化処理後の放流について了承いただく。

(5) 今後の対応等

ア 本市による再発防止策

今回同様の事故再発防止策として、市内のP F O S等含有泡消火剤使用企業・施設に対し、設備点検の強化及びP F O S等含有泡消火剤の代替に向けた働き掛けなどの情報発信を行う。

イ 同大学による再発防止策等

消火設備の修理は完了。現在、泡消火剤の代替に向けて手続きを進めている。

ウ その他

今後、本事案に伴う不安の声に対しては、同大学に真摯に対応してもらう。